

活気ある職場を目指して～コロナ禍に負けない職場づくり～

コロナ禍の中、新年度を迎え5か月が経ちますが、未だ、歓送迎会などの新メンバーとコミュニケーションを深める行事ができない日々が続いています。

宇都宮市保険年金課国保給付グループは、業務内容毎の座席なので、業務が異なれば同じグループでも、普段は一人ひとりと話す機会が少なく、お互いに距離を感じていました。

そこで、この状況でもグループ内の親交を深めることができるよう、今年度から、グループの親交会の幹事さんのアイデアで、昼休みを利用した少人数、非接触でできるレクリエーションを始めることになりました。

ユニークな取組なので、ここで紹介したいと思います。

まず、役職や業務内容を問わず、くじによりチームを作りました。チーム毎に思考を凝らし、チーム名もつけました。

次に、実施内容ですが、毎月月替わりで、運動系や知能系などのレクリエーションを実施し、成功した回数でポイントが付与されます。5月は縄跳び、6月はけん玉を行いました。今後もダーツなどを行っていく予定で、1年間を通してポイントを貯めて、最終的に年間優勝チームが決まるという流れになります。

毎月、本番の日までに各自自主練習をするなど、みんな楽しみながら参加しています。

～レクリエーション後の感想～

- ・ 普段なかなか話せない同僚と、いろんな話をするのができて楽しかった。
- ・ 通常では見られない姿を見ることができた。意外な一面に気が付いた。
- ・ ちゃんと縄跳びが跳べるかプレッシャーはあったが、跳べたので達成感を味わえた。
- ・ チームプレイなので負けられないと思った。チームの結束が固まった気がする。
- ・ 翌日筋肉痛になり、運動不足に気付いた。
- ・ 午後の仕事のはかどった。
- ・ 本当は飲みに行きたい（笑）。



みんな、意外にも自身の健康状態を把握するきっかけになったり、同僚の知らない一面を知ることができたりと、様々な気づきや発見がありました。

何より、職員同士の心の距離が、近くなった気がします！

食事会（飲み会）を開けなくても、工夫次第で親交を深めることは可能だということも実感しました。企画してくれた幹事さんに感謝です。

これを参考に、みなさんの職場でも更なるコミュニケーション向上を目指し、コロナ禍でも楽しめるレクリエーションを取り入れてみてはいかがでしょうか。